

SAAの起源

本日はいつも赤いタスキを掛けて入り口に立っておられるSAAについてお話をさせていただきます。今年度の宇部ロータリー・クラブのSAAは塔野毅さんで、副SAAは藤井良康さんです。

知らないクラブにメーキャップして一番お世話になるのがSAAです。また来訪ロータリアンが一番頼りになるのもSAAです。

SAAの語源はSergeant At Armsで、直訳すれば「武器を携帯した軍曹」とでもいうのでしょうか。ちょっと厚手の英和辞典を引くと「英国王室、議会、法廷、社交クラブ等の守衛官」と出ていますが、日本のロータリーでは「会場監督」と翻訳しています。

SAAの起こりは中世に遡ります。獅子心王と呼ばれたリチャード1世(1157~99年)がイギリスの王位に就いた1189年、自分のそば近く警護の任につく24人の護衛隊を組織しました。この官職をSAAといい、現在でも英国王室の護衛に当たったり、法廷や議会の秩序を維持する役目を果たしています。日本の国会議事堂の衛視などもこれに該当します。

At Armsといえますから、もともとは武器を携帯していたのですが、時代が下がると職権を表示するものとして職杖(棍棒のような武器)または鎚矛(盾)を持つようになり、さらに装飾的な組紐のような綬というものをかけるだけの形式的なものになりました。貴族の館の宴会場で金モールの大礼服に似た制服に威儀を正し、職杖を持った威厳のある大男が出てくる映画の場面がありますが、それがSAAなのです。中世ヨーロッパの旅の宿泊先はもっぱら貴族の館でしたが、そこには必ず番兵がいて主人のもとに案内していました。今日、ホテルのドアマンやベルボーイに軍服のようなミリタリー룩の制服が多いのも、またホテルの名称に城の意味のシャトーの名前を冠したものが多いのも中世貴族の館の名残です。

ロータリー・クラブにSAAが正式な役職として定められたのは1906年であり、ポール・ハリス、マックス・ウォルフ、チャールス・ニュートンがシカゴ・クラブの最初のSAAに就任しています。古くから社交クラブには秩序維持のためSAAを置く習わしがあり、ロータリー・クラブもポール・ハリスの発案でSAAを置いたといわれています。アメリカ議会にもSAAが置かれていますが、アメリカ人は私たちの想像以上にヨーロッパの貴族社会に羨望感を持っているそうですか

ら、それを見習ったのかもしれませんが。

ロータリーの創生期に奉仕の理想の論戦で、つかみ合いが起こり、それを仲裁する役目を担ったのが始まりであるという伝説もあります。・・・万が一のトラブルに備え、心身を鍛える 必要があったのかもしれませんが。

クラブではS A Aの選出については、ロータリーのこと、クラブのことを熟知した会長経験者及びロータリアンとして経験が深い会員が任命されます。

S A Aはクラブの役員ではありますが、理事であってもそうでなくてもよいことになっています。当クラブではS A Aは理事になっています。また、S A Aはクラブのいかなる委員会にも属さない独立した役職です。しかし、何人といえども会場内のことはS A Aの権限下におかれています。

クラブ細則には「会場監督の任務は通常その職に付随する任務およびその他会長または理事会によって定められる事項を行うことを任務とする」となっています。具体的には、宇部ロータリークラブS A Aマニュアルによりますと、

- ①会場の準備
- ②来場者の案内
- ③例会の運営
- ④会場の片付け
- ⑤会場備品の管理 等

ありますが、例会場の気品と風紀を守り秩序を維持するため、たとえば私語の制止、早退防止、無届け欠席の厳禁など強大な権限を保有しています。任期中に他の奉仕委員会のように演壇に立って活動成績を発表することもなく、自らの役目をひたすら守り通すクラブの「縁の下の力持ち」的存在であり、由緒ある役職です。